

良い習慣 小学生のうちに

健康テーマに公開授業

中南連携推進協

猿賀小で初めて実施

平川

弘前、黒石、平川、藤崎、大鰐、田舎館の6市町村

の教育長や弘前大学関係者らでつくる「中南地区連携推進協議会」は9月29日、平川市の猿賀小学校で健康をテーマに公開授業を行った。同校教諭2人と、弘前大学院医学研究科の中路重之科長が生活習慣病の特徴を説明し、小学生のうちから健康を意識することが大切を説いた。

(長内健)



がんや脳卒中などの特徴を説明し「自分がどんな生活をしているか考えてみて」と呼び掛ける中路科長

授業は健康教育プロジェクトの一環として同校をモデル校に初めて行い、教員ら112人が見学した。

6年生に行った授業で、木村卓教諭はクイズ形式で本県の平均寿命が全国最下位に陥っている現状を説明し、その原因を考えさせる授業を展開。工藤純子養護教諭は、がんや脳卒中などの生活習慣病が動脈硬化と関係があり、「血圧測定が動脈硬化の進行を知る手段」と述べた。中路科長は「たばこを吸ってすぐがんになるわけではないが、今から生活習慣をしっかりと考えて」と呼び掛けた。

内海望君(10)は「将来、たばこの吸い過ぎ、お酒の飲み過ぎに気を付けよう」と思った。きょう学んだことを家族に伝えたい」と話した。

中路科長は「生活習慣病は4代になって危険性に気付いても遅い。小学校で教えることは非常に画期的だ」と述べ、授業の実施校

が広がることに期待した。動による生活習慣改善などと4回行い、他校でも実践
同校での公開授業は、運をテーマに10月16日まで、可能か検討していく。